

日本樹木医会ビジョン2012

目 次

I 前文

1. 日本樹木医会の設立と現状
2. 本会の法人化と目的
3. 日本樹木医会ビジョン2012の策定経緯

II 樹木とともに生きる

1. 樹木文化を背景とした活動
2. 樹木を通して自然環境を観る
3. 樹木医活動の広がり

III 会員の役割と責務

1. 樹木文化の発信
2. たゆまぬ知識、技術の研鑽と見識の向上
3. 地域に根ざした活動の重視
4. 予防医学的な取組みの展開
5. 交流活動への参加
6. 的確な業務を通じた社会貢献

IV 本会の役割と取組み課題

1. 樹木保全の普及と樹木医業務の拡充
2. 継続的な研修の推進
3. 会員交流の推進と一体感の醸成
4. 関係機関や地域社会と連携した活動の推進
5. 支援者の拡充による運営基盤の安定
6. 倫理観の高揚

V 自然環境を大切にする社会づくりへの貢献



I 前 文

1. 日本樹木医会の設立と現状

日本樹木医会（以下、「本会」という。）は、専門家として樹木の調査・診断・治療や樹木保護に関する知識の普及・指導などを行う樹木医制度の創設を受け、樹木医資格を取得した第一回研修の終了生が発案し、その総意をもって設立された。その後、本会と会員は、国の助成による「ふるさとの樹保全対策事業」を初めとする様々な樹木保護と普及啓発に取り組むとともに、全国各地で研修・講習会等を通じて知識と技術力の向上を図り、また、本会の組織体制を整えて、業務の拡充と樹木医に対する社会的信頼の向上、社会貢献などに努めてきた。

これまでの20年の歳月の中で、樹木医が対象とする樹木は、巨樹・名木から身近な街路樹、公園樹、庭園樹などにまで拡大している。これらの活動は、樹木に心を寄せる人々の理解と共感を得て、樹木医の名称の広がりとともに、社会的な信頼も確立しつつある。

2. 本会の法人化と目的

本会では、設立以来、長年にわたって法人化に向けた検討を重ね、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成十八年法律第四十八号）」の成立と公布を待ち、一般社団法人を指向した新たな定款を作成し、平成21（2009）年の本会総会で、一般社団法人の設立を宣言した。

この定款では、設立の目的を以下のように示している。

「当法人は、樹木医の知識と技術を通じて巨樹、名木等の文化財をはじめとする樹木、緑地、森林等の保全、樹木文化の継承と発展及びこれらの普及啓発に関する活動等を地域社会と連携して行うこと等により、広く環境の保全に寄与することを目的とし、その目的に資するため、次の事業を行う。

- （1）会員の知識・技術の向上、交流等会員の支援に関すること
- （2）情報収集、調査研究及び技術開発に関すること
- （3）普及啓発及び指導に関すること
- （4）地域社会、関係機関等との連携に関すること
- （5）その他、当法人の目的達成に必要な事項に関すること」

本会と会員は、この目的に沿って活動しているところであり、本ビジョンは、その具体的な活動指針を示すものである。

3. 日本樹木医会ビジョン2012の策定経緯

本会は、設立10年の節目に当たる平成14（2002）年、定款の改定を行い、事業目的を拡大するとともに倫理規程を定め、21世紀初頭における活動指針として「日本樹木医会ビジョン21（以下、「ビジョン21」という。）」を示した。また、法人化に当たっては、新たな定款とともにビジョン21の普遍的な考え方を継承し、「一般社団法人日本樹木医会の活動の基本方向」（以下、「基本方向」という。）を表した。

そして、本会創立20周年を迎えた今日、会員及び本会が将来にわたり、健全な姿で社会的使命を担えるよう、社会情勢を踏まえ、基本方向に沿い、概ね10年の中期的な活動指針として、ここに「日本樹木医会ビジョン2012」を表す。

Ⅱ 樹木とともに生きる

1. 樹木文化を背景とした活動

本会は、会員活動の分野として、樹木、緑地、森林等の保全とともに、活動の精神的背景ともいえる樹木文化の継承と普及を掲げている。

人びとの暮らしは、衣食住はもとより、文芸、絵画、音楽など、広く人文的な分野を含めて樹木と深いつながりがある。特に、幾世代もの暮らしとともに生き続けている樹木、誕生や入学・卒業などの記念を祝う樹木、街づくりの中で潤いや安らぎを与えている樹木など、時間の共有が人と樹木の絆を育んでいる。この絆に基づいた思考や行動を私たちは樹木文化と考える。

私たちは地域ごとに、また、そこに生きる樹木ごとにこの樹木文化を背景とし、過去から現在に続く自然の系譜を読み取り、将来に継承する自然の姿を模索しながら樹木医活動に当たることを務めとしたい。

2. 樹木を通して自然環境を観る

現在の自然環境を観ると、人類が産業革命を契機に利便性や物質的な豊かさなどを追及してきた結果、地球規模の温暖化、都市部でのヒートアイランド現象、人類の活動に起因する絶滅種の増加などが、人類の生存基盤をも危うくする要因として顕在化してきた。これらに対し、国際連合は、1972（昭和45）年の「国連人間環境会議」（ストックホルム会議）、1992（平成4）年のリオデジャネイロの「環境と開発に関する国際連合会議（地球サミット）」をはじめ、数々の会議を開催し、「気候変動枠組条約」や「生物多様性条約」など、自然環境の保全に向けた人類共通の課題を提起し、改善策を模索し、様々な取組みを進めている。

私たちは、自然を構成する一員である樹木を通じて自然を観る。その状況から自然環境の変化を早期に察知し、その改善に向けた取組みを真摯に示していきたい。

3. 樹木医活動の広がり

樹木は、時代や生活様式の変化とともに、期待される機能や役割が多様化している。ことに近年は、二酸化炭素の吸収源のような地球レベルの役割から都市の微気象の緩和、美しい都市景観創出、夏の緑陰の形成、住居の修景など身近な空間における様々な役割まで注目されている。

樹木の役割の多様化がみられる中で、樹木医の調査・診断・治療業務は、天然記念物の巨樹・名木をはじめ、防潮林や防風林などの国土緑化樹、公園樹や街路樹などの都市緑化樹、庭園樹等にまで拡大している。また、これらの業務に加え、樹木を主とした観察会や講習会、自然教育などの活動を全国各地で展開している。

私たちは、このような活動をますます拡充するとともに、その成果を共有し、自然環境の保全に努めたい。

Ⅲ 会員の役割と責務

1. 樹木文化の発信

私たち会員は、樹木医の役割と責務を果たしていくうえで、樹木文化を背景として、活動していきたい。

私たちが提唱する樹木文化は、地域の自然とその歴史、人びとの暮らしや心のつながりの中にある。私たちは樹木医活動を行うとき、対象の樹木が時の流れの中で育んできた過程と現在の姿を樹木文化の表現形として理解する。

私たちの活動が多面で共感を得たのは、この樹木文化を読み取り、背景にしていたからではなかろうか。診断を行う樹木がたとえ、伐採を余儀なくされるものであっても、今日までの来し方を探り、その木に心を寄せる人々の思いに耳を傾け、未来にも樹木とともに生きる大切さを伝えたい。

2. たゆまぬ知識、技術の研鑽と見識の向上

樹木を巡る社会経済情勢や人々の価値観の変化は、樹木医業務のあり方や実施方法などに影響している。私たち樹木医は、常にこうした情勢の変化を的確に把握し、社会の信頼に応えていくことが求められる。

このため、樹木及びその自然環境に対する確かな知識・技術、業務展開のための倫理や法令遵守、説明責任への対応などの研鑽に努めるとともに、見識を高め、樹木文化を読み取り、伝える力を培いたい。

3. 地域に根ざした活動の重視

樹木は、地域ごとに異なる生態系の中で生きている。地域の生態系を把握するには、科学的な知識に裏付けされた観察とその分析が基礎であり、これに地域ごとに育まれた樹木文化への造詣を深めることが、よりの確な樹木医活動を可能にする。それゆえ、私たちの活動は、いつも地域とともにあるべきである。

4. 予防医学的な取組みの展開

これまでの調査・診断・治療業務は、傷んだり病んだりした樹木が主であった。今後は、樹木が健全に生育するための予防医学的な展開が期待されている。このため、これまでの事例による知見の蓄積を踏まえ、予防医学的な取組みを推進したい。

5. 交流活動への参加

本会には様々な知識、経歴、見識等を持ち合わせた会員が集っている。しかし、個人が追求できる分野には限りがあることから、組織として取組むことが重要である。会員は本会と支部の活動に参加することを自らの向上への機会とし、積極的に交流活動に参加することを旨としたい。

6. 的確な業務を通じた社会貢献

私たちの活動は、様々な業務を通じて自然環境の保全に寄与し、社会に貢献してきた。その折りごとに、樹木の調査・診断・治療等の必要性を社会に発信するとともに、的確な業務の遂行を心がけてきた。今後ともこの伝統を礎とし、樹木文化の普及啓発や、知識・技術の研鑽と見識の向上に努め、地域に根ざした活動を進めるなど、樹木医への社会的信頼の向上を図り、さらなる社会貢献に継続して取組むことを旨としたい。

IV 本会の役割と取組み課題

1. 樹木保全の普及と樹木医業務の拡充

樹木医業務の拡大や市民への自然環境学習や観察会などの普及啓発により、樹木医は社会に有用な役割を果たしている資格として定着してきた。しかし、私たちが伝えたい樹木保全の想いや、手をさしのべたい樹木はまだ数多くある。これらは私たちの努力と熱意で業務となるものと考えて取組みたい。本会は、会員とともに今後も人々の生活に役立ち、国土から地域を視野に入れた樹木保全の普及と樹木医業務の拡充に努めていく。

2. 継続的な研修の推進

本会は、設立当初から本会あるいは支部等の組織を通じ、また、会員個々に、現場を重視した考えに基づいて樹木医学や樹木の保全技術など、種々の研修を奨励し、実施してきた。その研修は、海外に赴くこともあった。

近年、継続研修を行うことは、社会の信頼を確立していくうえで、樹木医のみならず、科学分野における様々な資格の存在意義の価値向上に不可欠の要素となっている。

本会では、これまで会員の高い研修意欲に応えるため、継続研修のあり方を検討してきた。その結果、財団法人日本緑化センター及び樹木医学会と合同で長年検討してきた「樹木医CPD」制度が、2012（平成24）年度から開始することになった。本会は、この制度を活用して会員の継続研修に取り組むことにより、樹木医資格のさらなる価値の向上を目指したい。

3. 会員交流の推進と一体感の醸成

本会は、年度ごとの資格取得者の高い同期意識をもとに、各年代が集う縦糸の役割も持ち、有資格者の高い参加意欲を確保している。

この伝統を継承していくため、本会は、ホームページの活用やニュース、会誌「TREEDOCTOR」の発行を始め、各種の技術開発、教訓事例の提供、技術講座等の研修の実施や書籍販売等、会員サービスの向上に努めている。

引き続き、会員に魅力のある組織づくりとサービスの向上に努め、高い参加意識のもと、会員交流の推進と一体感の醸成を図ることとする。

4. 関係機関や地域社会と連携した活動の推進

樹木医には、広範な知識・技術とともに高い見識に基づく客観的な判断を求められる。また、活動を円滑に進めるうえで、関係者や地域社会の理解と協力を得ることが重要である。

本会の多くの会員は、様々な学問分野を背景に各種学会や社会貢献団体などにも所属している。このことが樹木医業務にも反映され、より確かな活動実績を積み重ねる原動力となっている。

このため、本会は、関連学会、専門機関等との連携をさらに深めることにより、会員の幅広い知識・技術の習得に努めるとともに、地域社会との関係を重視し、活動に対する理解と協力が得られるよう努める。また、国際的な展開にも対応し、近隣諸国の関係団体との交流に努める。

5. 支援者の拡充による運営基盤の安定

賛助会員や樹木医関連団体は、私たちの活動のよき理解者であり、支援をいただくことを通じて、本会の運営の大きな力となっている。

本会は、本会の目的に賛同する団体、企業、個人に広く連携を呼びかけ、賛助会員等支援者の拡充に努めることにより運営基盤の安定化を図るとともに、共通の目標である自然環境保全のための社会貢献を進めたいと考える。

6. 倫理観の高揚

樹木医活動の原点は、多様な緑が持つ様々な価値を社会全体の財産として保全することにある。このような崇高な公益目的を持つ活動は、謙虚で高い倫理観と見識に基づいて行われることが重要である。

このため、本会は倫理規程の周知徹底、各種の会員活動を通じた啓発活動により、会員の倫理観の高揚に努める。

V 自然環境を大切にする社会づくりへの貢献

千年に一度といわれる大地震が発生し、街を飲み込むような津波が人びとに絶望さえ感じさせたとき、寄せる波に耐えて残った1本の松は、生きる希望を呼び起こし、復興しようとする心のシンボルとなった。また、波が引いた庭にとどまった生誕記念の若木に咲いた花は、在りし日を偲び、明日をともに生きるよすがとなった。

人間は、ともに生きる樹木により支えられ、生命をつなぎ、暮らしを豊かにし、心を癒している。これを知る先人たちは、木を植え、育て、守ってきた。それを受け継いで今に生きる人間は、木を植え続けている。

山の木も、里の木も、街の木も、庭の木も、幾百千年の年輪を刻む木も、今を盛りに生きる木も、明日に伸びる若い木も、生まれたばかりの苗の木も、いずれも、世界の、日本の、地域の、街の、そして心の財産である。

世界の気候はかつて見られなかった異常さが普通のことようになり、山では生態系に生物の多様性がみられなくなり、都市では暑さや乾きが増幅し、いたるところで外来の動物や植物がみられるようになった。それらは樹木の健全な生育に危うさをもたらしている。この危うさは、人間がその多くをもたらし、いずれ人間の暮らしにも及ぶかもしれない。

今、人間は、自らが未来に生き続けられる社会の姿を模索し、知恵を出し合いながら行動している。これをさらに発展させていくには、自然環境を大切にする社会づくりを推進していく必要がある。

私たちは、一本ずつ観る樹木から、そして、その樹木が育つ地域の自然を観ながら地道な樹木医活動を行っている。この成果を積み重ね、広く社会に発信して共有するとともに行動を呼びかけていくことにより、自然環境を大切にする社会づくりに貢献したいと願う。

